



## これからの私の『路』



理事 小原 章

新型コロナウイルスが世界中に急速に拡大しました。多くの感染者と多くの死者を出し、未知のウィルスへの恐怖で世の中はパニックにもなっています。東京オリンピック開催についても危ぶまれているほどです。この原稿が皆さんに読まれる頃には日本でも世界でも下火となり、良い方向へ向かっていることを強く望みながら原稿を書いています。

さて、私も保育園の仕事について32年、園長となって25年が過ぎようとしています。自分の保育園の仕事はもとより、日本の子ども達の健やかな成長と保育園で働く人達の処遇向上に少しでも役に立てればと思い板橋区私立保育園園長会に始まり、当協会の前身でもあった東京都私立保育園連盟、全国私立保育園連盟などで役割をいただき仕事をしてきました。我ながら「まあまあ、頑張ってきたかなあ。」と思ったりします。

当然、歳もとりました。気が付けば、あと1年で還暦です。子ども達は成人し、昨年には孫も生まれ、目出度くおじいちゃんの仲間入りもしました。孔子の言葉に「吾十有五にして学に志す、三十にして立つ、四十にして惑わず、五十にして天命を知る、六十にして耳順う、七十にして心の欲する所に従えども、矩を踰えず（私は十五才で学問を志し、三十才で学問の基礎ができて自立でき、四十才になり迷うことがなくなった。五十才には天から与えられた使命を知り、六十才で人のことばに素直に耳を傾けることができるようになり、七十才で思うままに生きても人の道から外れるようなことはなくなった）」というものがあります。人生を10年区切りにして人としての成長をあらわしています。

私は50歳の頃に当協会の機関誌の専門家に聞くコーナーに掲載されているコーディネーショントレーニングと出会い、これを保育園の世界に広めることが天命かもしれないと思い活動してきました。少しずつですが広がりを見せ、いくつかの保育園で取り入れられてきましたがまだまだです。あと少し頑張らねばと思っています。

そして60歳になり人の言葉に素直に耳を傾けられるステキな大人として円熟期を迎えるのかな？などと考えたりもしています。一つの節目として改めて人生を考える時期だと思っています。

そんな今、息子と娘が保育園で働いてくれています。なんと幸せか。そろそろ次代に引き継いでいくことを考えなければならない時期です。これからの10年、今までの経験をいかに伝え、良いものは残し、改めるべきは改善して自分の責務を全うして次に繋げていきたいと考えています。

自分の保育園と自分自身のこれからの『路』を模索していくことが今後の10年ですが、東京都民間保育園協会の発展にも「私の路」を歩きながら少しでも貢献できればと思います。